

認定 NPO 法人 横浜移動サービス協議会
令和 4 年(2022)度 R4.10.1~R5.9.30
事業報告書



定款項目対比表

定款項目	部門	事業	事業名	頁
(1) 移動に関する情報提供・相談に関する事業	自主事業	相談	① 相談室 ② お出かけ便利帳	4
(2) 要支援者の介護予防・日常生活支援総合事業、その他高齢者等に対するサービスに関する事業	制度利活用	移動支援	① 福祉有償運送「さぼーと・横浜」	5
	制度利活用	自律支援	② 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業サービスB「アベリティーヴォ」	6
	自主事業	ユニバーサル移動	③ ユニバーサル移動 ア. お出かけ事業 イ. ユニバーサルツアー推進 ウ. 移動支援ファンドの構築と試行 エ. 介護タクシー配車依頼サービス	7 { 9
(3) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス、地域生活支援、及び児童福祉法に基づく障害児通所支援、その他障害者等に対するサービスに関する事業	制度利活用	移動支援	① さぼーと・横浜(再掲)	10
	制度利活用	移動支援	② ガイドヘルパー(障害者移動支援)	13~15
	自主事業	ユニバーサル移動	③ ユニバーサル移動 ア. お出かけ事業(再掲) イ. ユニバーサルツアー推進(再掲) ウ. 移動支援ファンドの構築と試行(再掲) エ. 介護タクシー配車依頼サービス(再掲)	7 { 9
	制度利活用	自律支援	④ 就労継続支援B型事業(IKIIKIカンパニー)	11
	制度利活用	その他	⑤ 入院時コミュニケーション事業	12
	(4) 市民活動団体・個人の支援に関する事業	自主事業	人材育成	① 国土交通省認定講習
自主事業		人材育成	② ガイドヘルパー・同行援護従業者養成研修 ア. ガイドヘルパー研修 イ. 同行援護従業者養成研修	13 { 15
制度利活用		移動支援 人材育成	③ 横浜市障害者ガイドボランティア事業事務取扱 ア. 横浜市障害者 イ. 横浜市障害者ガイドボランティア研修	15 { 16
制度利活用		その他	④ 横浜市重度障害者福祉タクシー利用券換金業務代行	17
交流&ネットワーク 構築・拡大		ネットワーク 拡大	⑤ 団体活動支援 ⑥ 団体連携	18
(5) 高齢者及び障害を持つ人等が利用しやすい交通システム・まちづくりの学習・検討・提言に関する事業	交流&ネットワーク 構築・拡大	ネットワーク 拡大	① 学習会、交流サロン、シンポジウム等の開催 ② 要支援者を交えた防災・減災のための取り組み	19 { 20
(6) 公共交通機関・医療機関・福祉機関・行政・社会福祉協議会、福祉活動団体などとの連携・協働に関する事業	交流&ネットワーク 構築・拡大	ネットワーク 拡大	① 横浜市等関係部局との連携	20
(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業	総務	その他	① よこはま市民共同オフィスの運営・管理	21

1 事業概況

当会、認定 N P O 法人横浜移動サービス協議会は、平成 12(2000)年に市民セクターよこはまから独立し、平成 16(2014)年 11 月 22 日に、道路運送法改定の時に法人登記した。

丁度 20 年の節目となる今年、毎日社会福祉顕彰の受賞候補として選ばれ、10 月 31 日に賞と賞金 100 万円を贈呈いただけることになった。

横浜市社会福祉協議会障害者支援センター様よりご推薦頂き、神奈川県や横浜市、地元企業と連携し、高齢者・障害者の支援、人材育成、情報発信などに取り組み、「ユニバーサルツーリズム」の実現に向けて取り組んでいることを評価いただいた。移動支援だけでなく、商業施設など人が多く集まる場所でのバリアフリー調査や店舗スタッフの福祉研修の他、高齢者や障害者が家から出かけるきっかけとなる楽しいイベントや、仲間が集まることのできる居場所の提供などにも注目して頂き、地域の暮らしを支えるボランティア活動のモデルケースととらえていただいたことは、私たちの地道な活動が、他者から、このように評価して頂いたことに感極まらない。

法人決算では、赤字をさらに広げてしまった。主な原因は、2022 年 1 月に立ち上げた就労継続支援 B 型事業 IKI KI カンパニー、コロナ禍の影響とドライバーの高齢化等の事情による福祉有償運送さぼりと横浜の不振となっている。

しかしながら、IKI KI カンパニーは、立ち上がりは遅れたが、3 年間で黒字転換の計画どおり、単年度赤字を半減することができた。さぼりと横浜においては、時代のニーズと現状を鑑み、法人車両を手放し、固定費の削減に努め、今期後半には、赤字解消となっていることを報告したい。

団体運営は困難を極めているが、外出に困難を抱える人たちの現状の課題解決のための事業の一部は収益を上げている。特に、人材育成のためのガイドヘルパー養成研修は、知的・身体・視覚障害すべてを受講するケースが増えている。受講者の中から当会への登録を促し、移動支援事業も伸びている。

また、業績悪化に対する事業再構築補助金の補助金交付候補者として採択されており、10 月より移動困難者の課題解決のために、IT システムの導入による介護タクシーのマッチングアプリの開発に取り組み、収益向上を目指している。(別紙参照)

ドライバーの高齢化、定年年齢の上昇や年金の減少など、ボランティア活動による福祉有償運送が縮小する一方、利用ニーズは上昇し、利用者の重篤化も進んでいるため、当会で取り組む福祉タクシー券換金協定事業者と連携し、効率的かつ多様な利用ニーズに応えた配車コーディネートを展開する。

65 歳以上の高齢者人口の増加は顕著であり、障害者数も増加の傾向が推定されている。

福祉有償運送は、平成 16(2014)年に、道路運送法が改訂されたが、その継続には課題が山積しており、横浜市の高齢者福祉サービスの一環として平成 14 年から実施されていた外出支援サービスは、令和 5 年 3 月をもって、18 区社会福祉協議会すべてが福祉有償運送の登録を更新していない。暫定的に社会福祉協議会既利用者のみ、タクシーによる代替サービスを提供しているが、乗車距離に応じて、おおよそタクシー料金の半額以下で、介助料等の徴収がなく、一番安価な移動サービスが終了したことになり、福祉有償運送の限界が見えてきていることを表している。

「いつでも、誰でも、どこへでも～」⇒「移動の先に待っていることがある♪」

外出することで、日常生活に新たな刺激が加わり、生活の質が向上し、活力が湧き、生き生きとした毎日を過ごせるようになるであろうことは、不変であり、事務局スタッフの中では、「サービス B、就労 B を超える！目指せ ULTRA C！」を合言葉に、様々な新しい取り組みに挑戦している。

2 各事業報告

(1)移動に関する情報提供・相談に関する事業

① 相談室 お出かけ便利帳

【事業概要】

相談室

平成 14 年全国社会福祉協議会の「インフォーマル協働研究」モデル事業で”断らないで済むシステムづくり”を目指して、「よこはま移動サービスセンター」を開設した。

その後、平成 18 年、19 年に横浜市協働提案モデル事業で、高齢在宅支援課との協働で「お出かけ相談室が始まった。

お出かけ便利帳

高齢や障がいのために外出をあきらめている人たちに、ちょっとした手助けのための情報提供をするためのものである。

相談室

事業開始:令和 14 年 4 月

スタッフ:服部、山野上、鈴木、江口

活動日時:平日、10:00~17:00

活動場所:事業所及び緊急連絡先による対応

関係機関等:福祉タクシー券換金事業者、移動

支援事業者連絡会、移動情報セン

ター他

受益対象者:障害者、高齢者等移動困難者

【活動実績】

相談室

だれもが使用できる「相談資料ファイル」を整備した以降、内容の改変や新しく始めた事業内容をタイムリーに追加して、電話対応の強化を図った。

お出かけ便利帳

事業開始:平成 18 年 10 月

スタッフ:山野上

受益対象者: 障害者、高齢者等移動困難者

高齢者、障害者等関連施設

お出かけ便利帳

平成18年度版発行が最後で、改定版発行には至らなかった。

【所感】

相談室

IT 活用による効率化が全盛の中、電話を用いることによる臨機応変な対応が可能な相談室機能を今後とも設けていく。

お出かけ便利帳

横浜市のホームページに、「福祉有償運送実施団体」が掲載されているが、その情報が不十分なため、実際に利用したい情報を集めているお出かけ便利帳の発行を継続していく。

【今後の展望】

相談室

相談依頼に対して、電話対応以外に、IT 活用も含めて、横浜市障害者タクシー利用券の換金業務締結の介護タクシーやガイドヘルパー研修受講者などとの連携も目指していく。

お出かけ便利帳

改定版発行に際しては、IT 活用により集めた情報を使用して、効率良く発行ができることを目指す。

(2)要支援者の介護予防・日常生活支援総合事業、その他高齢者等に対するサービスに関する事業

①福祉有償運送 さぼーと・横浜

【事業概要】

ひとりでは公共交通機関を利用することが困難な移動制約者に対し、移動の確保を行い、自身の社会参加や自立の向上を図る。

他人の介助に頼らずに移動することが困難であり、単独でタクシー等の公共交通機関を利用することが困難な身体障害者、要支援者、その他障害を有する方々に対して車による移動支援を実施する。

【活動実績】

法人車両の維持が難しく、ハイエースとキャラバンの2台を手放す。これにより法人所有の車両はなくなり、持ち込みで登録の車両のみとなる。現在車いすごと乗車できる福祉車両は1台となり、どうしても他の事業者を引き継ぐことが困難だった2名の利用者様のみ対応。利用者様には事業の縮小を伝え、一般車両の持ちこみに関してもドライバーさんが無理なく活動できる範囲のみ引き受けている。

事業開始:平成16年10月
スタッフ:事務局 天野
登録ドライバー12名
登録車両10台
活動日時:全日
活動場所:横浜市内発着の運行
関係機関等:障害福祉各関係機関
受益対象者:市内全域の移動困難者
支出額:3,433,605円



【所感】

高齢化するドライバーさん、高騰が続く燃料費。課題はそれだけではなく、営業ナンバーと同じように求められる安全管理体制、インボイス制度には対応しなくてよいのか等、事務局の費用も減らしようがないところまで減らしてはいるが、気持ちだけで活動しているボランティアの枠を超えているため力不足を実感。配車アプリが完成したら、順次そちらに移行していく予定だったので、時機到来かなと感じている。

【今後の展望】

配車アプリが、きめ細かく、うまく稼働して欲しいと願っている。

【こぼれ話】

金銭的な理由で介護タクシー利用は難しいという利用者さんが多い中、社協や他の福祉有償運送団体も撤退が相次いでいる。さぼーと・横浜が事業縮小するにあたり、登録利用者様にご紹介してきた新横浜の団体さんも、最近はドライバー不足で受け入れてもらえなくなってしまったとのこと。

配車アプリでも介護タクシー事業者から希望の金額が引き出せなかったとき、困る方も多いかと。配車アプリだけでは手が届かないかないところをどうするか。そんなどうしようもない案件がよく回ってくる。単発であれば受け入れることもあるが、それでも高いと言われ、困ることがしばしばあるのが現状である。

② 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業サービスB「アペリティーヴォ」

【事業概要】

4年目を迎えたコミュニティサロン「アペリティーヴォ」(通称:サービスB)は、介護保険で要支援と認定された方を中心に高齢者を対象とした横浜市の補助事業。

当会では一般的な福祉デイサービスのイメージと違った魅力づくりに拘り、新型コロナウイルス感染予防に徹底、試行錯誤を繰り返しながら実施した。

当会の強みを活かし、運営スタッフに障害当事者をホストやボランティアを加え、また、介護予防プログラムを共同オフィス利用団体やこれまでのネットワークから多彩なゲストに活躍してもらっている。

事業開始:令和2年4月

スタッフ:服部、山野上、江口

後藤、福田、鈴木

活動日時:毎週月～金曜日

活動場所:よこはま市民共同オフィス

関係機関等:横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課、中区福祉保健センター高齢・障害支援課、中区社会福祉協議会、横浜市不老町地域ケアプラザ他、中区内各地域ケアプラザ、よこはま市民共同オフィス入居団体等

受益対象者:介護保険要支援者他興味のある方

支出額: 2,112,267円

【活動実績】

4月から介護予防プログラムを水木曜の週2回に増やし、利用者確保に努めた。また、開催を月～金曜までの平日週5日に変更し、毎月カレンダーを発行して周知を強化した。開設当時のゲストはアペリティーヴォらしさを発揮。新規では公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流会様とのご縁があり、「自己啓発講座」の一環としてゲストを迎えることができた。また、関内地区で結成されたシニアクラブとの連携もあり、ポッチャの対戦もアペリ企画として展開した。



開催回数:69回 参加者総数:831名 介護予防プログラム実施日(スタッフ含む)
水・木曜日 13:00～16:00(15:30～16:00 ワンドリンク提供し交流タイム)
水・木曜以外 13:00～16:00 の間で参加者の都合により来所可
画像上:毎週IKIINKIカンパニーの季節に応じたバルーン装飾でお出迎え
画像中:「転ばぬ先に杖」で車椅子体験して横浜公園までお出かけ
画像下:恒例の壁画リニューアルはIKIINKIカンパニー利用者さんも一緒に



【所感】

今年4月から中区サービスB実施団体が2団体増え3団体となった。これまで独自の特色をアピールしてきたが、他団体の活動状況から得られる刺激や影響があった。また、区役所でも複数団体が活動していることで積極的に周知してもらえるようになり、情報交換の場も有意義と感じた。



【今後の展望】

懸案だった参加費は同じ関内セルテを拠点に活動している関内シニアクラブさんに足並みを揃えて値下げを検討。活動から4年が経過し、関内地区との関わりも増え、利用者確保が期待される。

【こぼれ話】

今年度アペリティーヴォには20代の車椅子ユーザーが仲間入り。70代の先輩参加者が孫のように可愛がり、「送ってあげるわよ」と自宅までガイドヘルパー兼ねたスタッフに同行。更に「何かあったら大変だから私の家も覚えておいて」とご案内あり、突撃訪問に繋がった。

③ ユニバーサル移動

ア. お出かけ事業

【事業概要】

日頃、外出が困難な人たちの外出の機会を増やし、外出先での豊かな出会いや体験を提供する。一緒に行動する人たち同士の情報交換や情報共有も図る。

また訪問先においては、障害者の日常的な様子に接することで障害者理解につながる。

【活動実績】 8回 総参加者 39名

- 10月23日 「ホッチポッチミュージックフェスティバル」
横浜公園／見学・バリア探検参加（5人）
- 11月3日 関内フードハイカラフェスタ
関内さくら通り／見学（3名）
- 12月6日 海釣り企画下見
金沢漁港／下見（5名）
- 2月25日 中区ボッチャ交流会
横浜市立本町小学校／参加（5名）
- 4月18日 釣り船による海釣り
金沢漁港沖／参加（8名）
- 7月29日 関内まつり
関内さくら通り／参加（8名）
- 9月9日 障害者支援フォーラム
戸塚区民文化センター／参加（5名）
- 9月23日 運河クルーズ
中区大岡川／参加（10名）

事業開始：令和4年1月

スタッフ：早川・星野・鈴木、江口

古田中・後藤・福田・山野上

活動日時：全日

活動場所：事業所及び市内イベント

関係機関等：神奈川県共同募金会、NPO 法人アークシップ、横濱時ジェントルタウン倶楽部等

受益対象者：高齢者、障害者など外出が困難な方、ボランティア

支出額：本部事業にて実施



【所感】

参加者は日常から離れたイベントなどを楽しみ、支援者以外の人たちとも行動を共にすることで、有意義な時間と機会を楽しむことができた。

【今後の展望】

お出かけ企画の周知、PR は課題である。今後、こうした情報を得にくいと思われる人たちに広く情報を届けていくために、福祉分野にとどまらず関係各所さらにキーマンとなる関係者との連携を強化する。

今年度は多彩なプログラムを提供することができたが、さらに興味を持ってもらえるような工夫を加え、参加者の拡大を目指す。

【こぼれ話】

お出かけとしては、初めて 釣り船を借り切ったので、車いす利用の方の乗船に際し、岸壁から棧橋へ、そして、乗船口への高低差の大きいバリアーを経験した。船会社の方が4名で対応していただいたが、良い経験になった。

イ. ユニバーサルツアー推進

【事業概要】

当協議会が、企画から実施までの全体を行い、参加者は現地集合や車両での送迎を選択する。

【活動実績】

コロナ禍のため、活動ができなかった。

【所感】

お出かけ事業よりも高い、ツアー内容に見合った参加費をいただく、また、旅行会社との連携も行うこともあるこの事業は、宣伝などにも高額な費用が発生するなど、費用負担も大きいため、コロナ禍ではなかなか進めることができなかった。

【今後の展望】

比較的小規模のお出かけ事業と規模の大きい本事業をまとめて、ユニバーサルツアー推進として、進めていく。

事業開始：平成 20 年 1 月
スタッフ：江口、後藤、斉木、鈴木
関係機関等：神奈川県共同募金会、社会福祉協議会、地域ケアプラザ、地域団体
受益対象者：高齢者、障害者など移動困難な方
支出額：本部事業にて実施

ウ. 移動支援ファンドの構築と試行

【事業概要】

法制度では網羅できない移動支援のために、ファンド立ち上げを検討、広く一般から寄付を募り、移動支援サービスや制度が行き届かない方々に、旅行や余暇、趣味や就労のための移動支援の提供の仕組みを模索する。

また、高齢者や障がい者が主体となり、相互理解のユニバーサル研修等を開催する。

【活動実績】

実施実績なし(今後実施予定)

【今後の展望】

この支援ファンドの元となる、すでに実行中の「お出かけプレゼント」を含めた企画を進めていく。

スタッフ：江口、後藤、斉木、鈴木
受益対象者：高齢者、障害者など移動困難な方
支出額：本部事業にて実施

エ. 介護タクシー配車依頼サービス

【事業概要】

介護タクシーを利用したい移動困難者と稼働率を向上させた介護タクシー事業者をアプリ i-CareGO を使いマッチングさせる。利用者に快適なタクシーサービスを楽しんでもらい、医療、介護関係者の配車対応労力を軽減する。タクシー事業者には稼働率の上昇、収益性の向上を図る。

【経緯】

介護タクシーの配車に苦慮した鎌倉の病院が、アイネットへ配車アプリの開発を依頼して i-CareGO がスタート。アイネットには移サ協に寄付を頂いていた関係があり、タクシー事業者とはタクシー券換事業でつながりを持ち介護タクシーにノウハウを持つ当会が事業に参画した。

事業開始：令和 5 年 2 月
スタッフ：山野上・江口・和田・末木
活動日時：平日、10:00～17:00
活動場所：事業所
関係機関等：株式会社アイネット
受益対象者：介護タクシー利用者、病院施設のソーシャルワーカー、介護タクシー事業者
支出額：本部事業にて実施

【活動実績】

〈タクシー事業者関係〉

2～4月：タクシー事業者向けに i-CareGO 説明会を 5 回実施

5月：タクシー券換金協定事業者に申込案内を送付

介護タクシー事業者 54 社に参加申込を頂く

〈利用者関係〉

5月 病院、介護施設に FAX で i-CareGO の案内を送付

8 病院と 2 施設に訪問して説明

10 月までに 4 病院と 1 介護ステーションにアプリを導入

6 月当会にアプリを導入、相談機能の一環として電話による配車依頼受付を開始。また、HP に配車依頼受付を設置

10 月末までに当会から 11 件の配車を完了

10 月 20 日現在、i-CareGO を利用して 62 件の配車を完了

〈使い易い仕様に改善〉

利用者、タクシー事業者からの具体的要望を元に、アイネットと協議しながら随時仕様改善に取り組んでいる

また、今後の個人利用を考慮した仕様検討を進めている



【所感】

介護タクシー配車アプリ導入を検討されるいくつかの病院を訪問したが、どちらの病院でも患者が溢れ電話対応に忙しい状況であった。コロナ感染症は5類へ移行したが、依然として病院関係者は大変な状況を脱することができていない。

こんな状況下で、介護タクシー配車依頼アプリ i-CareGO が病院の業務を軽減するのに少しでも役立つことを願い、アプリの利用拡大に邁進していきたいと考える。

【今後の展望】

事業再構築補助金(11月取得予定)を利用し、移サ協 HP より配車アプリが利用できる個人利用向けアプリの開発をアイネットに依頼。

個人利用版アプリをリリースし、一般の方がアプリストアからダウンロードする事を可能とする。

また、当会ホームページにアプリの入口を設ける事により、利用者が自身のスマホにダウンロードする事なく配車アプリの利用を可能とする。

コミュニティデザインラボに協力を依頼し i-CareGO の広報に予算を投入し、利用者拡大を図る。

引き続き病院・施設へのアプリ導入のアプローチを行い、タクシー事業者に i-CareGO への参加を募る。

【こぼれ話】

ソーシャルワーカーが何人もいる大きな病院では、それぞれが介護タクシーの配車依頼を電話でしていたため、患者の配車依頼ができていないかを把握することができない、手配の内容が記録に残らないことでの言わないのトラブルになるという問題が発生していた。

配車アプリ i-CareGO を利用することにより、今までの問題が解決できる！との喜びの声を頂きその後、配車アプリ i-CareGO を導入して頂けた。

(3) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス、地域生活支援及び児童福祉法に基づく障害児通所支援、その他障害者等に対するサービスに関する事業

① さぼーと横浜(再掲)

② ガイドヘルパー事業(障害者移動支援)

【事業概要】

単独で外出が困難な障害者に対してガイドヘルパーが付き添うことで障害者の自立と社会参加を促進する。

ご家族の負担軽減と利用者児童・生徒の成長や自立支援を行っている。

【活動実績】

実施回数: 114回 / 参加人数:186人

収入金額:4,889,758 円

事業開始:平成 25 年 4 月

スタッフ:山野上、奥本、後藤、古田中

ガイドヘルパー 18 人

活動日時:1 日の範囲で終了する外出

活動場所:日用品の買い物、理容室、家族の学校行事、余暇活動(映画、動物園、水族館、公園等)通学先、通所先

関係機関等:横浜市健康福祉局障害福祉課

受益対象者 28 人

(利用対象)支給決定を受けた知的障害者・全身性
支出額:4,336,943 円

【所感】

社会参加をし、様々な経験を楽しみながら成長を見守りたいと考えている。

【今後の展望】

ガイドヘルパーを増やし、当事者が社会参加ができるようにより良い支援・活動へ繋げていく。

【こぼれ話】

一人だと出かけるのが不安だったけどヘルパーさんと一緒に出かけられて行きたい場所に行けて嬉しかったです。

好きな事をととてもよく知っていて教えてくれてびっくりしました。

③ ユニバーサル移動(再掲)

ア.お出かけ事業(再掲)

イ.ユニバーサルツアー推進(再掲)

ウ.移動支援ファンドの構築と試行(再掲)

エ. 介護タクシー配車依頼サービス(再掲)

④就労継続支援 B 型事業(IKIINKI カンパニー)

【事業概要】

通常の事業所に雇用されることが困難な障害者のうち通常の事業所に雇用されていた障害者であってその年齢、心身の状態その他の事情により引き続き当該事業所に雇用されることが困難となった者、就労移行支援によっても通常の事業所に雇用されるに至らなかった者その他の通常の事業所に雇用されることが困難な者につき、生産活動その他の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。

事業開始:令和4年1月
スタッフ:早川・星野・鈴木
古田中・後藤・福田・山野上
活動日時:平日、10:00~16:00
活動場所:事業所及び市内イベント
関係機関等:障害福祉各関係機関
受益対象者:市内全域のサービス受給対象者
支出額:16,199,085円

【活動実績】

現在登録者延べ人数:身体2人・知的3人・精神障害8人の計12名の登録。

1日あたり3~5名が通所し自主製品の作成・販売、受注作業に取り組んでいる。

地域イベントに利用者も参加するようになり、接客や地域交流により、自信をつけ活動が広がっている。

1人が一般就労し、1人が就労移行事業所へ移ったが、退所後も、来訪されたり、イベントへボランティア参加してくれている。

事業所のニュースを利用者が作成し、非常に好評をえている。

【所感】

6月に前サービス管理責任者が離職し、指導員だった早川が資格を生かし、新サービス管理者に就任し、管理者は副理事長の山野上が兼務、星野がサービス管理責任者研修を受講した。

積極的に利用者確保に向けた各関係機関への周知・営業が始まり、初めての特別支援学校生徒の実習の申し込みにつながるなど、IKIINKI カンパニーの存在の周知・地域とのつながりが広がっていると実感できた。

支援体制の整備、工賃作業の確保が徐々に整い、運営体制強化のためにキャリアコンサルタントの尾山氏に委託し、書類等の整備を行った。

【今後の展望】

引き続き、利用者確保のための周知活動に力を入れる。

利用者の工賃を見直す。スタッフのスキルアップを図る。

【こぼれ話】

初めての暑気払いには、元放課後等デイサービスの卒業生や、地域の放デイ事業者、ガイドヘルパー利用者の他、関係団体からも参加者があり、様々な交流が生まれた。また、少しずつ IKIINKI カンパニーが移動サービス協議会の大きな一部門として定着していることを感じられた。

就労へ移行した利用者二人は、たくさんのイベントに参加して、人とのコミュニケーションや技術に自信をつけ、一歩踏み出してくれたことが嬉しい。今後の定着や進路についても、いつでも相談に乗るなど、継続して支援をしていきたい。

⑤ 入院時コミュニケーション事業

【事業概要】

横浜市では、重度の障害がある方を対象に、入院時のコミュニケーションを支援する事業を実施している。この事業は、意思疎通に支援が必要な場合に、コミュニケーション支援員を入院先(精神科病院及び精神科病棟を除く)に派遣し、医療機関のスタッフとご本人との円滑なコミュニケーションをサポートする。

事業開始:平成 22 年 4 月
スタッフ:後藤、鈴木、山野上
活動日時:不定期
活動場所:支援対象者入院先 生活支援係
関係機関等:横浜市健康福祉局障害福祉課

【活動実績】

コロナ禍において、病院への訪問が制限され、実施には至らなかった。

【今後の展望】

コミュニケーションの難しい方にとって、入院時の不安と不便さは、大きな負担になると考えている。日常の移動支援を行っている気心のしれた支援者が顔を出し、病院との意思伝達に役に立てるよう、支援者の育成と、利用者へのサービスの周知に取り組んでいきたい。

(4)市民活動団体個人の支援に関する事業

① 国土交通省認定講習

【事業概要】

高齢者や障害のために、公共交通機関を利用する事が困難な方の移動支援をより安全、安心、快適に行うことができるようになるためのドライバー養成を目的に国土交通省認定講習を実施。

高齢ドライバーに気付きと振り返りのための機会を与える、支えあっぶ安全運転研修を実施。

【活動実績】

開催件数 認定講習 4 回／支えあっぶ研修 4 回
(令和 4 年 11 月、令和 5 年 1 月、5 月、9 月)
認定講習 78 人
支えあっぶ研修 11 人

【所感】

戸塚自動車学校の老朽化が酷く、雨漏れにより建物の天井材が剥がれ落ち、座学の会場としては使用の限界に来ていると思われる。

【今後の展望】

受講希望者の減少の為、講習回数を減らして開催して来たが、今後は講習廃止も念頭に置き開催場所や講習内容の変更を検討する時期であると考え。

【こぼれ話】

長年にわたり講師をお願いしてきた、藤原氏が高齢のため、引退されました。ありがとうございました。

事業開始:平成 19 年
スタッフ:天野、奥本、小泉、和田
活動日時:年 4 回開催
活動場所:戸塚自動車学校
関係機関等:横浜市中区社会福祉協議会
受益対象者:地域活動ホーム、作業所、デイサービスなどの施設送迎運転者
福祉有償運送ドライバーと目指す方
運転ボランティア
支出額: 1,198,420 円

② ガイドヘルパー・同行援護従業者養成研修

ア. ガイドヘルパー研修

【事業概要】

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業のうち、移動支援事業の適正な運営を確保するために支給決定を受けた障害者又は障害児に対して、適正な移動支援サービスを提供するガイドヘルパーの養成を目的とする。

【活動実績】

収入金額:4,886,641 円

今年は計画通り年に知的、全身性共に 5 回実施し、知的は 97 名が受講。全身性は 68 名が受講。合計 165 名が受講した。

そのうち受講者の日程の都合により一回の研修で修了できない等の理由で、修了者数は 162 人。前年度より 50 名の増加となった。

	知的	全身性	計	同時受講	実質受講者数	修了者数
R4年10月	23	17	40	7	33	40
12月	7	13	20	5	15	20
R5年1月	10	5	15	1	14	15
5月	25	17	42	12	39	41
9月	32	16	48	10	38	46
計	97	68	165	35	139	162

事業開始:平成 25 年 7 月(知的障害者)
平成 29 年 4 月(全身性)
スタッフ:山野上、後藤、山口、正城
活動日時:年間約 6 回
(知的…3 日、全身性 3 日/1 回の研修)
活動場所:横浜移動サービス協議会共有
スペースⅡ/演習で外出あり
受益対象者:資格を取得して、働きたい方
支出額:4,395,047 円
※同行援護従業者(P.14)支出も含む

- 講師について:講師陣は好評で安定している。前年度に引き続き、服部一弘(現協議会理事長)、渡邊昭宏氏(元養護学校副校長)、橘高敏也氏(特別支援学校教師)、櫛田美知子氏(一般社団法人 Smile Again)、磯部浩司氏(当協議会理事、自立生活センター 自立の魂)、平野道器氏(一般社団法人アートゴー)、後藤まゆみ(協議会)、松島祐治氏(社会福祉法人 横浜やまびこの里 東やまたげデンス)、福西浩之氏(社会福祉法人ハルパーステーションさくら草)各氏が講師を務めている。更に、齋藤健司氏(社会福祉法人 ハルパーステーションやまびこ)が加わり、厚い講師陣となっている。
- 受講料:他の事業所と比較しても比較的受講料は安く「知的」22,000 円、「全身性」22,000 円、両課程 40,000 円で行っている。次年度は料金を改定する。
- 5月に、例年通り、保土ヶ谷区社会福祉協議会との共催で開催。

【所感】

- ・計画通り演習への当事者参加の強化し、沢山の当事者の方々にスタッフとして携わっていただいた。実施後のアンケートでも、とても良かったとの声をいただいている。
- ・受講生アンケートを web で回答、集計しており、アンケートの結果を事務局で回覧している。記名式に変更したので、今後の他研修の参加に繋げていく。来年度はアンケートの内容を各講師へフィードバックし、研修内容の見直しをしながら研修の充実を図る。

【今後の展望】

今年度は、開催月によって受講者数の差が大きかった。早めに県へ実施届けを提出し、各種機関、関係事業所等に積極的に研修の広報を行い、参加人数を増やすよう努力していきたい。また、既に働いている方々のスキルアップの研修の必要性も感じており、研修内容の充実を図りながら多くの受講生が研修を受けられるように、工夫していきたい。



【こぼれ話】

研修後のアンケートから～

- ・実習では、障害者の当事者の皆さんがとても賢く、知らないことを沢山教えていただいた。
 - ・当事者に生で触れて、質問もできて、とても有意義だった。
 - ・ビジュアルが活用され、理解しやすい講義の進め方だった。
 - ・当事者の講師の方々から、生きた経験を聞くことができて良かった。
- ～殆どの受講者が満足したと回答され、概ね好評であった。

「今後のアドバイスとして」

- ・現実に仕事に関わっている方の経験談を取り入れてもらいたい。
- ・ヒヤリ例とその対策など取り入れて欲しい。
- ・演習の際グループ行動について、もう少し丁寧なアナウンスが欲しい
- ・演習に参加する当事者は、違う障害の方を混ぜるのも一案かと思う。
- ・実習後の反省会、質問、ディスカッションがなかったのが残念だった。

「改善点として」

- ・段取りが悪いと感じた。・聞き取りづらいことがあり、先生方にはマイクを使用して欲しかった。
- ・テキストを使わないことが多く、講義と言うより座談会のような感じだった。・研修中に居眠りしている人がいて心配になった。

※アンケートで沢山の貴重なご意見を参考に、次年度の研修の見直しに活かして行く予定である。

イ. 同行援護従業者養成研修

【事業概要】

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業のうち、移動支援事業の適正な運営を確保するために支給決定を受けた障害者又は障害児に対して、適正な移動支援サービスを提供するガイドヘルパーの養成を目的とする。

【事業実績】

	一般	応用	同時受講	計	修了者数	実質受講者数
R5年3月	14	13	12	27	27	15
4月	12	-	-	12	12	12
7月	18	9	6	27	27	21
計	44	22	18	66	66	48

応用課程の申込が少ないため、今年度は2回に減らした。

事業開始：平成 30 年 5 月（一般課程）

平成 30 年 5 月（応用課程）

スタッフ：山野上、後藤、山口、正城

活動日時：年間約 5 回

（一般…3 日、応用 2 日 / 1 回の研修）

活動場所：横浜市民共同オフィス共有スペースⅡ・
演習で外出あり

受益対象者：資格を取得して働きたい方

支出額はガイドヘルパー研修(P.13)に含む



講師：松村道生氏(Blindelux・全盲)、安藤将大氏(株式会社 19・弱視)、高山ちひろ氏(全盲)、岩屋芳夫氏(盲特別支援学校教諭)、後藤まゆみ(協議会)各氏、清野智佳子(特定非営利活動法人 横浜市視覚障害者福祉協会)氏にご登壇いただいている。

○応用は年間の回数を減らしたが、受講者数は前年度より増加している。

○R3年9月より「一般課程」24,000円、「応用課程」26,000円、同時受講44,000円に値上げした。

【所感と展望】

応用課程の回数を減らしたが、受講者数は増えている。来年度の開催回数については、検討していきたい。

【こぼれ話】 アンケートより

・実技体験が多くて良かった。講師が視覚障害の方だったので、話される内容に現実味があり、判りやすかった。・当事者役しかできなくて、実際にサポートできるか不安が残った。・素晴らしい内容で受講して本当に良かった。・サポートする場面で、すぐに行動に移せる自信に繋がったことが大きかった。など感想をいただいた。今後の研修に活かしていきたい。

③ 横浜市障害者ガイドボランティア事業事務取扱

ア. 横浜市障害者ガイドボランティア

【事業概要】

支援対象者(移動支援を希望する障害者)に必要となる付添(ガイド)をボランティアが行う際、横浜市が一定の要件を満たす活動に奨励金を支給し、当協議会が活動報告をとりまとめ、市に請求し、奨励金振込を代行する。

【活動実績】

ボランティアの募集をHPはじめ、各イベント参加や車いす体験などの研修会で応募を呼び掛けたり様々な機会を通じて行ってきた。

一方では、当会開催のガイドヘルパー養成研修会の参加者にガイドボランティア活動について登録の願いをし、登録～コーディネート～お試し体験～活動実践へと成果を挙げている。

事業開始：平成20年1月

スタッフ：江口、斉木、石井、佐藤

活動日時：不定期

活動場所：主に横浜市内

関係機関等：社会福祉協議会、地域ケアプラザ、自治会など地域団体

受益対象者：移動支援を必要とする障害者、移動支援のボランティア

支出額：2,090,349円

年度	R4年度	R3年度	R2年度	R1年度
ガイドボランティア	245人	246人	278人	268人
支援対象者	168人	170人	195人	195人
月平均活動数	1,244回	1,238回	1,318回	1,212回

【所感】

ボランティアの応募を促す活動を通じて感じることは、ある程度関心を持っている人は応じてくれるが、それ以外の人向けにはどの様に展開アプローチしてゆくかが今後のキーポイント、課題。

【今後の展望】

ボランティア登録人数の増加を目指した活動を行うにあたって、従来の路線で車いす体験を模した研修会、イベント参加での呼びかけでは効果が不十分な為、例えば、障害者(支援対象者)関連の学校、PTA、通所施設などをターゲットにしたボランティア登録などの呼びかけ協力のお願いを展開してゆく。

【こぼれ話】

一般的には、現役をリタイヤしてその後の人生をどう生きるか、障害者支援のガイドボランティア活動についてより多くの人に知ってもらい、ボランティアの支援を待っている、障害者だけでなく保護者、先生などから感謝され、新しい仲間、絆が出来、充実した日々が送れるきっかけを提供していきたい。

イ. 横浜市障害者ガイドボランティア研修

【事業概要】

横浜市ガイドボランティア事業を広く周知してもらうことを目的としている。

ボランティア登録した後は、安全に活動してもらえるよう障害者理解やボランティア活動体験などの研修を行う。

事業開始:令和4年1月
スタッフ: 富永・早川・星野・鈴木
古田中・後藤・福田・山野上
活動日時:平日、10:00~16:00
活動場所:事業所及び市内イベント
関係機関等:
受益対象者:移動支援を必要とする障害者、
移動支援のボランティア
支出額: 1,022,438円

【活動実績】

開催日	場所	内容	参加人数
R4.10/23	横浜公園	ホッチポッチフェスティバルで車いす障害と接遇方法/体験	30
R5.3/16	東戸塚地域ケアプラザ	車いす障害の理解と接遇方法/体験	4
R5.3/17	若葉台団地	車いす障害の理解と接遇方法/体験	8
R5.6/29	横浜移動サービス協議会	障がい理解講座	20
R5.7/30	山下公園	車いす障害の理解と接遇方法/体験	50
R5.8/22	横浜移動サービス協議会	通学時の集団見守り関係者交流連絡会	9
R5.8/30	横浜移動サービス協議会	アペリティーヴォ車いす介助体験研修会	2



今年度は主に3パターンの研修会を開催した。

- 1) イベント会場へ出向き、車いす体験をしながら接遇方法などを研修。
- 2) マンモス団地や地域ケアプラザへ出張して、車いすや白杖による体験～接遇などを研修。
- 3) 当会事務所内にて、障害理解や車いす等利用者との接遇方法～体験実習を行う。

【所感】

横浜市ガイドボランティア通学見守り交流連絡会では、支援学校の先生や見守りボランティアが一堂に会して、日頃の活動について困ったことなどの対応を先達ボランティアからアドバイスしたり、先生方それぞれの経験談などを話し合い情報交換の貴重な場として大変好評だった。

【今後の展望】

- ・学校やPTAに呼び掛けて保護者を対象に支援対象者/ボランティア募集の研修会参加を促す。
- ・地域ケアプラザ、マンモス団地等呼びかけて、ボランティア募集の研修会参加を促す。
- ・多数集まるイベント会場に参画して、障害体験や接遇方法を学び、ボランティア募集を行う。

【こぼれ話】

ガイドボランティアを体験してみて、障害者本人、保護者から頼りにされる、一方では期待に応える為には規則正しい生活を心がけ、健康管理に努めるなど常に活動時に備える準備をしておくことが大事。

ガイドボランティア活動に永年携わっている人に感想を聞くと、頼りにされると自身のコンディションを整えつつ達成感や日々の喜びや充実したライフワークを送れている。

体力のつづく限り活動していきたいとのこと。

④ 横浜市重度障害者福祉タクシー利用券換金業務代行

【事業概要】

横浜市重度障害者福祉タクシー利用券取扱事業者と当会が換金協定を締結し、横浜市に対して各事業者が利用者から受け取った福祉タクシー券の換金業務を代行する。

【活動実績】

換金実績:103,358,373円 換金月平均実績:8,613,198円
換金枚数:207,553枚 換金月平均枚数:17,296枚
前年度比較:106% 前年増減率:6%
換金協定締結事業者総数:600件 新規締結件数:48件

事業開始:平成19年10月
スタッフ:鈴木、石井、奥本
関係機関等:横浜市健康福祉局障害福祉部
障害自立支援課、横浜市在宅
重度障害者福祉タクシー利用
券取扱事業者(一般タクシー・
福祉有償運送事業者・介護タ
クシー等)
受益対象者:身体障害者手帳・愛の手帳所
持者で条件を満たす方
支出額:1,579,884円

月	枚数(枚)	換金額(円)	手数料(円)	総額(円)
10	21,532	10,723,755	322,980	11,046,735
11	21,198	10,558,505	317,970	10,876,475
12	21,941	10,927,700	329,115	11,256,815
1	17,748	8,835,436	266,220	9,101,656
2	15,713	7,826,122	235,695	8,061,817
3	26,637	13,279,162	399,555	13,678,717
4	11,446	5,700,616	171,690	5,872,306
5	12,613	6,282,323	189,195	6,471,518
6	14,547	7,242,498	218,205	7,460,703
7	12,801	6,373,722	192,015	6,565,737
8	11,718	5,825,543	175,770	6,001,313
9	19,659	9,782,991	294,885	10,077,876
合計	207,553	103,358,373	3,113,295	106,471,668

	枚数(枚)	換金額(円)	手数料(円)	総額(円)
前年度実績	196,259	97,563,050	2,943,885	100,506,935
今年度実績	207,553	103,358,373	3,113,295	106,471,668
前年度比	11,294	5,795,323	169,410	5,964,733

今年度は5月から新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し外出制限も解除されたことにより、外出する機会が増えたようで、前年度に引き続き例年総額実績を上回る結果となった。

また、事業者からの問い合わせも増加し、事業者数は600件になり、新規で48件の事業者と換金協定を締結した。

前年度に引き続き、タクシー券の換金作業の一部であるタクシー券の枚数確認を「IKIIKI カンパニー」に委託している。

【所感】

タクシー券は事業者の換金締切と利用者の有効期間に半年のズレがあり、例年混乱を招いている。

事業者の換金は年度末、利用者の有効期間は前年10月1日から当年9月30日となっており、今年度も9月末に慌てた事業者からの問い合わせが多数あった。利用者にとってはタクシー券の色が変わるだけだが、事業者の換金は年度末の締切に間に合わない場合、年度実績として換金できなくなる。

タクシー券に裏面に利用上の注意は明記されているものの、より分かりやすい説明の徹底が必要だと感じる。

【今後の展望】

増加している換金締結事業者が円滑かつ正確な書類提出ができるよう、きめ細かな対応を心がける。
また、新規締結事業者には今年度(株)アイネット様と連携してスタートした「介護タクシー配車依頼サービス i-CareGo」の情報提供を徹底し、登録事業者の増加に結び付ける。
常にタクシー券利用者状況の把握に努め、当会の果たすべき役割を確認しながら事業に反映させる。

【こぼれ話】

事業者の換金額誤提出について

ある事業者から問い合わせがあり、以前換金したタクシー券の換金額が間違っていたと問い合わせがあった。250円として利用されたタクシー券1枚を誤って500円として換金申請してしまったので返金したいとのことだった。横浜市に確認したところ当会が事業者に替わり差額を横浜市へ返金することとなり手続きを行った。

当会では換金依頼書の請求金額と提出されたタクシー券の金額が一致しているかの確認しか行うことができない。今後同様の事例が起こらないよう、各事業者には提出前に今一度確認していただく必要があると感じた。

⑤ 団体活動支援 ⑥ 団体連携

【事業概要】

団体運営、許認可等の相談対応、団体連携活動

【活動実績】

○介護タクシー許可申請の相談

福祉有償運送国交省認定講習の受講、ガイドヘルパー養成講座の受講を推奨し、介護タクシーグレイスケアにて運転実習実施。

当会の参加するイベントにボランティア参加いただくなど、良い関係性が構築できている。

○令和4年度利用者向けデジタル活用支援推進事業(地域連携型)

後半継続実施

実施回数：12回 / 参加人数：のべ25人 / 収入金額：1,050,000円

【所感】

総務省事業として、デジタル活用に不安のある方々のために、基本的なスマホの使い方から、様々なオンライン手続の利用方法まで、身近な場所で学べる「デジタル活用支援講習会」を全国各地で実施。

アパリティィヴォ所管の中区高齢支援課からつないでもらい、横浜市デジタル推進室との連携で実施。講師が丁寧にわかりやすく説明し、地域の方たちとの連携も生まれました。

【今後の展望】

引き続き、情報弱者の支援をつづけたい。次は、要綱をよく読み、万全な体制で望みたい。

【こぼれ話】

令和5年度も募集があり、横浜市デジタル推進室に、連携の承諾をいただいたが、総務省への申請手続きを失念。残念！

(5)高齢者及び障害を持つ人等が利用しやすい交通システム・まちづくりの学習検討提言に関する事業

① 学習会、交流サロン、シンポジウム等の開催

【事業概要】

地域緑のまちづくり「関内桜通り」

ユニバーサルな視点で、高齢者、障害者、子育て世代など誰でも楽しめる、“緑のさんぽみち”をつくる。車椅子利用の人もベビーカーの子どもたちも一緒に楽しめたり、香りや触感を楽しむなど、多角的な緑化の楽しみ方を模索する。

【活動実績】

○二つの内覧会開催

IKIINKI カンパニーとアペリティーヴォ

障害者福祉と高齢者福祉の融合を目指して、元金沢養護学校副校長渡邊昭宏先生のご講演とそれぞれの居場所見学会実施。

○地域緑のまちづくり「関内桜通り 誰にでも手が届く緑化プロジェクト」推進団体“花・草・木”の事務局2年目となり、関内まちづくり振興会の皆様のほかに、桜通の企業との連携が深まった。

横浜国大アーバニストスクール卒業生とのコラボにより、泰生ポーチ前を中心に新しいまちづくり提案に取り組み始めた。



【所感】

二つの内覧会では、新しく加わった職員にとって、当会の目指していることを理解する良い機会となった。緑アップ事業では、地域との連携が深まり、「花・草・木」と呼ばれ、親しみを感じている

【今後の展望】

福祉現場の人材不足がますます深刻化している。人材発掘・育成、メンタルフォローの必要性を強く感じている。今後、スキルアップ研修や現認者の交流サロンのような場づくりを考えていきたい

【こぼれ話】

障害者ガイドヘルパー養成研修や同行援護従事者養成研修などの受講生に、当会の説明を丁寧にするすることで、ガイドボランティア登録者につながった。

② 要支援者を交えた防災・減災のための取り組み

【事業概要】

中区自立支援協議会災害時支援プロジェクトに参加している。

【活動実績】

災害時支援プロジェクト、中区の防災を考える会等に参加した。
毎年、イベントスタッフ研修を受託している、認定NPO法人アークシップのバリアフリー研修では、中区消防団の協力をいただき、救急救命を含めた研修を行った。

【所感】

本体事業が過渡期にあり、防災についての取り組みの余裕がなかった。

【今後の展望】

東日本大震災から、12年がたち、現地の復興支援は継続できていないが、今後、横浜での被災がいつ起きても不思議ではなく、観光地であり、日中人口が、住民より就業者が多い中区での防災対策について、検討の着手を必要と感じている。

(6) 公共交通機関・医療機関・福祉機関・行政・社会福祉協議会、福祉活動団体などとの連携・協働に関する事業

① 横浜市等関係部局との連携

【事業概要】

関係部局で実施される委員会等に委員を選出し、情報収集と連携を深めている。

【活動実績】

横浜市福祉移動サービス運営協議会 委員 服部理事長
神奈川区社会福祉協議会 移動情報センター推進委員会 委員 山野上副理事長、斉木
保土ヶ谷区社会福祉協議会 移動情報センター推進委員会 委員 江口
福祉のまちづくり推進会議小委員会 委員 服部理事長

【所感】

様々な連携関係が構築されてきていることを実感している。
今後の時代ニーズに応じた、新しい展開を見据えた活動の必要性を強く感じている。

【今後の展望】

移動に関わる制度・サービスは、当会創立時と状況が大きく変動している。新型コロナウイルスの5類への移行にともない、社会が動き始めている。

今後のニーズの把握、新しい移動支援の模索、ネットワークの連携を活かした展開の時と考えている。

事業開始:立ち上げ当初より
スタッフ: 服部、山野上、スタッフ一同
活動日時: 平日、10:00~16:00
活動場所: 横浜市内他
関係機関等: 行政、社会福祉協議会等
受益対象者: 移動困難者、移動支援活動者等
支出額: 本部事業として実施

(7)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

① よこはま市民共同オフィスの運営管理

【事業概要】

横浜市市民活動共同オフィスの卒業団体が中心になって、共同事務所を設立し、入居団体による「町内会」によって運営。

【活動実績】


実施回数：長屋会議6回 / 参加人数：延べ48人 /
会計は、共同オフィスで独立会計となっている。

【所感】

隔月の定例会「長屋会議」も定着し、司会団体が事前にアナウンスを流し、議事進行を行っている。
情報共有とオフィスの使い方などを決めるのは、入居団体で構成される長屋会議が決議機関となっている。
現在、9 団体が入居。

事業開始：平成 20 年より
スタッフ：山野上
活動日時：平日、10:00~17:00
活動場所：法人事務所
関係機関等：入居団体
受益対象者：公益的な活動団体と個人
支出額：独自事業予算

【こぼれ話】



関内駅前北口地区市街地再開発事業 2029年度開業予定！
テナントは？最新情報も！

神奈川県横浜市中区の関内駅前に再開発ビル「関内駅前北口地区市街地再開発事業」が2029年度に開業！ オフィスビルのほか、賃貸レジデンス、商業施設となり、店舗が複数出店予定！ 旧横浜市庁舎とともに中…

shutten-watch.com 2023.07.09

関内駅前北口地区第一種市街地再開発事業

関内駅前北口地区市街地再開発準備組合は、横浜市中区の関内駅前に地上 24 階、地下 1 階、高さ約 120m(最高約 120m)、延べ面積約 34,500 m²の複合ビルを計画。低層部に商業施設、中層部に業務施設、高層部に住宅施設(約 170 戸)を配置。2025 年度の着工、2029 年度の竣工予定。



特定非営利活動法人
横浜移動サービス協議会

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-3-3

セルテ 11 階よこはま市民共同オフィス内

電話 045-212-2863

FAX 045-212-2864

ホームページ：<https://yokohama-ido.jp>

E-メール：info@yokohama-ido.jp

